

「第1回 相澤病院脳卒中地域連携リハビリテーションセミナー」 が開催されました

平成21年4月25日(土)、相澤病院ヤマサホールにて、「第1回相澤病院脳卒中地域連携リハビリテーションセミナー」が開催されました。本セミナーは、相澤病院と脳卒中地域連携診療計画(脳卒中地域連携パス)にもとづく連携病院の職員を対象として、脳卒中診療およびリハビリテーションに関する新しい知識の習得と、職員相互の交流を図り、松本地域の脳卒中地域連携ネットワークを充実させることを目的に開催されました。



今回は川村義肢株式会社の安井匡氏と、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース講師の大畑光司先生をお招きしてご講演いただきました。

参加者は、当院と連携医療機関である桔梗ヶ原病院、城西病院、丸の内病院、鹿教湯三才山リハビリテーションセンターから、医師、リハセラピスト、義肢装具士を中心に、総勢120名にお越しいただきました。



川村義肢株式会社 技術部開発課 安井匡氏

講演Ⅰでは、油圧式下肢装具「Gait Solution(ゲイト・ソリューション)」の開発に携わってきた川村義肢株式会社の安井氏より「油圧式AFOとその他のAFOの機能的な違い」と題した講演をしていただきました。AFOとは短下肢装具を指しますが、これまでの研究から従来の短下肢装具が歩行時の下肢筋活動に与える影響(弊害)について説明され、さらにそれらを解決するために開発された油圧式ユニットを用いた短下肢装具では、より正常歩行に近い筋活動や関節運動を引き出すことが可能になるなど、最新の下肢装具の機能について私達セラピストにも分かりやすくお話していただきました。

講演Ⅱでは、京都大学大学院講師の大畑先生より「片麻痺患者の下肢装具とバイオメカニクスに基づくトレーニング方法」と題した講演をしていただきました。片麻痺患者の歩行の特徴について文献的な考察や、先生が手がけてきた筋電図を用いた歩行分析の結果についてビデオ映像を用いて解説していただきました。さらに、これまでの研究結果をもとに、脳卒中片麻痺患者の歩行トレーニング方法についてもご教授いただき、臨床に即した大変興味深い内容の講演でした。



京都大学大学院 講師 大畑光司 先生

今回は、大勢の連携病院の職員の方々にご参加いただき、リハビリテーションに関する新しい知識を共有することができ有意義な研修会となりました。私達はこれからも常に新しい脳卒中リハビリテーションの知識や技術を修得するために、年に数回このようなセミナーや症例検討会を企画し、施設間連携、地域内連携を深めながら、患者さんへの医療サービスとして還元していきたいと考えております。本セミナー開催にあたり、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

総合リハビリテーションセンター 鶴飼 正二